タイモの新種品‘沖田香’の育成

照屋俊信1・太郎良和彦・浦崎直也・奥原光一1・田部井大介2・大城和久2
(沖縄農研1・沖縄農研名護・2沖縄農研石垣2・3沖縄県東部農林水産局農業)^

Breeding of the Taro Cultivar ‘Okitaka’

TERUYA, H., K. TARORA, N. URASAKI, K. GOYA, D. Tabei and K. OSHIRO

タイモ（学名、Clocasia esculenta Schott）はサトイモ科に属し、主に水田で栽培される多年生草本で熱帯アジアに広く分布する。沖縄県の伝統料理に欠かせない食材の一つで、また、葉類などの加工原料としても利用されている。栽培品種は、在来種（白茎）が用いられており、収量の安定性や芋の品質で問題点があるため、新品種の育成が強く望まれている。しかし、タイモは開花・結実がほとんどみられず、交配育種は困難である。そこで、多収性品種を育成するため、組織培養による変異体の作出、系統選抜試験を行った。その結果、親芋が大きく、収量性に優れる品種‘沖田香’を育成した。

【育成経過】

タイモの新種品‘沖田香’は、沖縄県農業試験場（農業技術研究センター）において、組織培養で作出された多芽体をコルヒチン処理して誘導された変異体の中から選抜された品種である。

1994年に‘白茎’（沖縄在来種）を供試して組織培養を行い、多芽体のコルヒチン処理によって変異体を作出した。
1996年に個体選抜試験を行い、選抜個体に‘G8—7’の系統名を付し、1997年から2000年まで系統選抜試験を行った。
2000年～2003年まで農業研究センター名護支所において系統選抜試験、生産力検定試験を行い、また、2002年、2004年には現地試験を実施した。その結果、芋が大きく、子芋の商品化率も高いこと、多収性を示すなど優れた特性が認められたため、2007年種苗法に基づく品種登録申請を行った。

【特性の概要】

成熟期の草丈は‘白茎’と同じである。葉幅はやや長く、葉幅／葉長比はやや大きい。茎葉部にはアントシアニンの着色はみられない。茎数は‘白茎’より少ない。芋の着生は密生で、親芋の形は紡錘形である。子芋の形は短および型で、ほころぼろとほとんど無い。親芋は‘白茎’よりも重く、商品化子芋数はほぼ同じであるが、総芋重量は大きい。植え付け時期にかかわらず安定して多収であり、収量は‘白茎’比116％の1,912（Kg/10a）であった。熟度は4.1と‘白茎’よりも小さかったが、食味では問題はなかった。現地試験では、根の張りが良く台風に強い点、茎が太く、生育の早い段階で親芋が大きくなると予想できた点、実際に正月用に収穫した親芋の大部分が2L以上であった点、子芋も在来の子芋より大きかった点について産業者より高い評価を得た（データ略）。

【栽培上の注意点】

タイモの乾燥症が多発する地域での現地試作では‘沖田香’においても乾燥症が確認されたので、乾燥病の発生に注意する。

第1表 ‘沖田香’の主要特性

<table>
<thead>
<tr>
<th>特 性</th>
<th>沖田香</th>
<th>白茎（在来種）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>草丈（cm）</td>
<td>71</td>
<td>71</td>
</tr>
<tr>
<td>蔓長（cm）</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>盛幅（cm）</td>
<td>19</td>
<td>18</td>
</tr>
<tr>
<td>萩幅／葉長</td>
<td>0.94</td>
<td>0.89</td>
</tr>
<tr>
<td>萩数</td>
<td>2.5</td>
<td>2.4</td>
</tr>
<tr>
<td>萩数</td>
<td>7.3</td>
<td>10.1</td>
</tr>
<tr>
<td>萩重（g／株）</td>
<td>344</td>
<td>287</td>
</tr>
<tr>
<td>萩上対照比（％）</td>
<td>122</td>
<td>100</td>
</tr>
<tr>
<td>乾燥（g／株）</td>
<td>273</td>
<td>211</td>
</tr>
<tr>
<td>収量（株）</td>
<td>5.6</td>
<td>5.5</td>
</tr>
<tr>
<td>収量（Kg/10a）</td>
<td>1912</td>
<td>1652</td>
</tr>
<tr>
<td>萩上対照比（％）</td>
<td>116</td>
<td>100</td>
</tr>
<tr>
<td>熟度</td>
<td>4.1</td>
<td>5.0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

1）生育特性は2002年～2003年の平均値
2）収量は2002年度を基に2004年の平均値
3）乾燥は2001年度を基に2004年度の平均値

写真1 ‘沖田香’の収穫